

『意匠』と『構造』を同時に考える プランづくり

The training to design the house

- 『ブロックプラン』とは
- 『遊のブロックプラン』による設計手法
- プランニングの手順

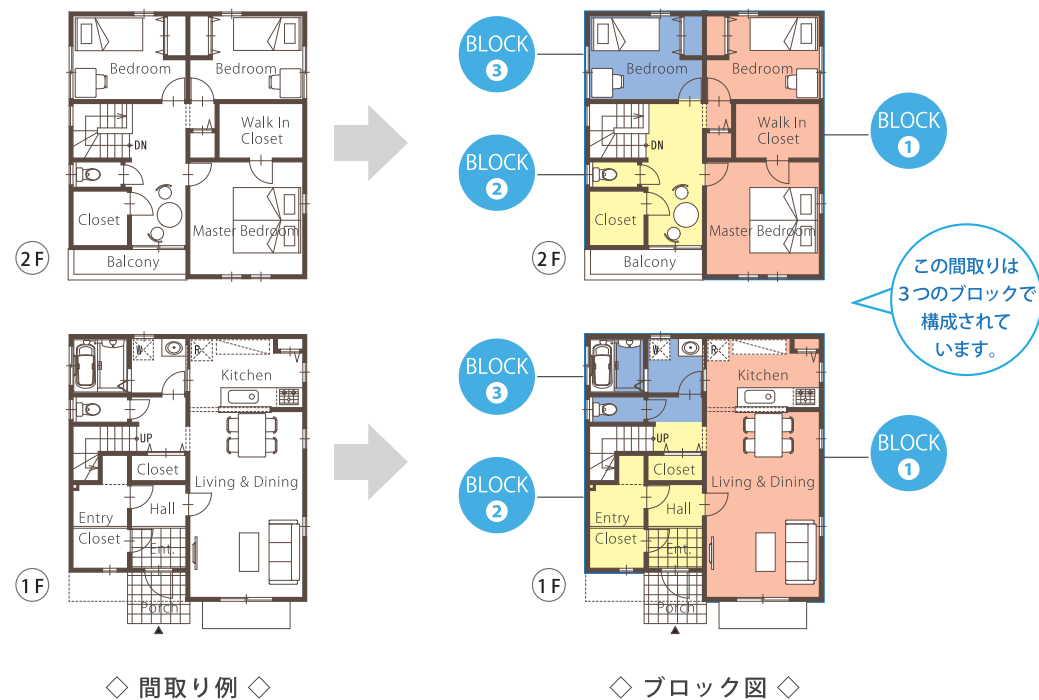


『ブロックプラン』とは

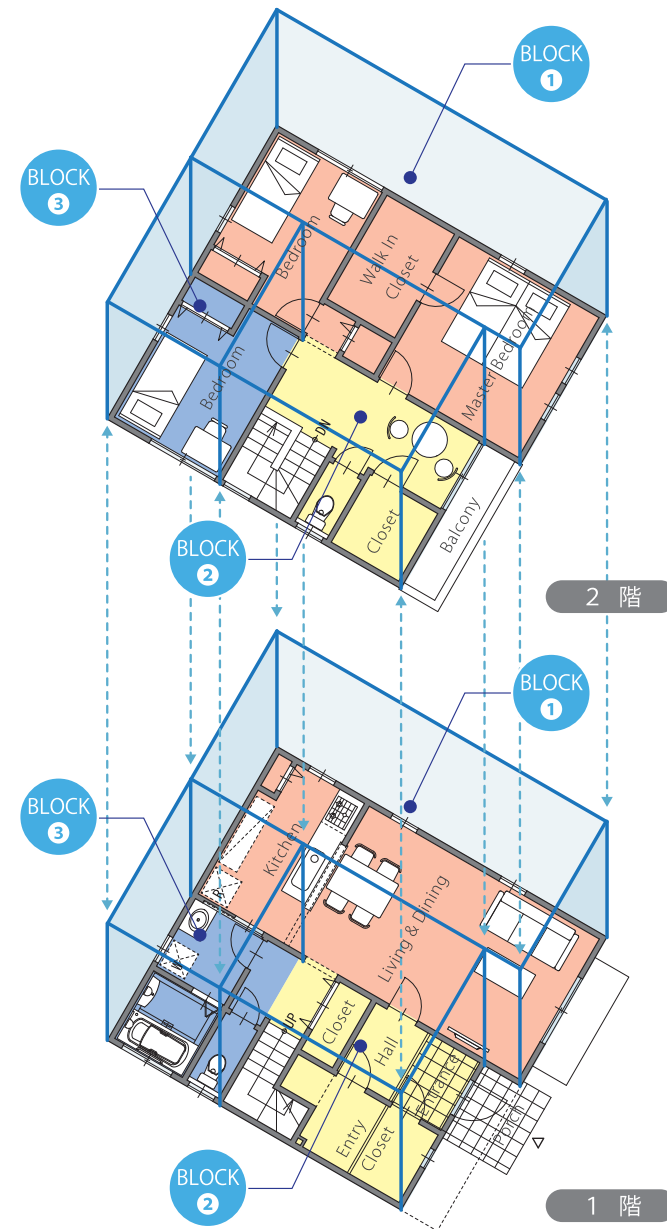
遊のブロックプランとは、箱の組合わせでつくられたプランのことを意味します。ブロックプランの考え方を理解することで、構造と意匠を同時に計画する力が身に着きます。

『ブロック』で考える間取り！

ブロック（箱）で計画すると、間崩れがなく安定した構造の家をつくることができます。もう一方で、住まう人にとって大切な「暮らし方＝想い」をブロックに込めることも、重要な考え方となります。安心・安全の家づくりは、家族が笑顔で毎日を過ごせること、家族を守ってくれる力強い建物であること。この2つを満足させることが、『ブロック』で考える間取りです。



上下階のブロック（箱）が重なり、間崩れを起こさない！



これが『ブロックプラン』

1階と2階のブロック（箱）を、同じ位置・同じ大きさで重ね合わせることで、上下階の壁や柱の位置が一致します。間崩れのないシンプルな構造フレームによって、荷重を素直に地盤へと伝えることができます。

ブロックで考えると1階と2階の壁（柱）が同じ位置で重なるので安心。



『遊のブロックプラン®』 による設計手法

『遊のブロックプラン』設計手法は、住宅専門の建築設計事務所である、遊建築設計社が行っているプランニング手法です。この手法の最大の特徴は、施主の要望を的確に捉え、『意匠と同時に構造も整理される』ことにあります。また、無駄のない合理的な考え方が、プラン作成のスピードを向上させ、弊社では、少人数で年間500棟のプランづくりを可能にしています。ここでは、ブロックプランでつくられた家のメリットを詳しく紹介します。

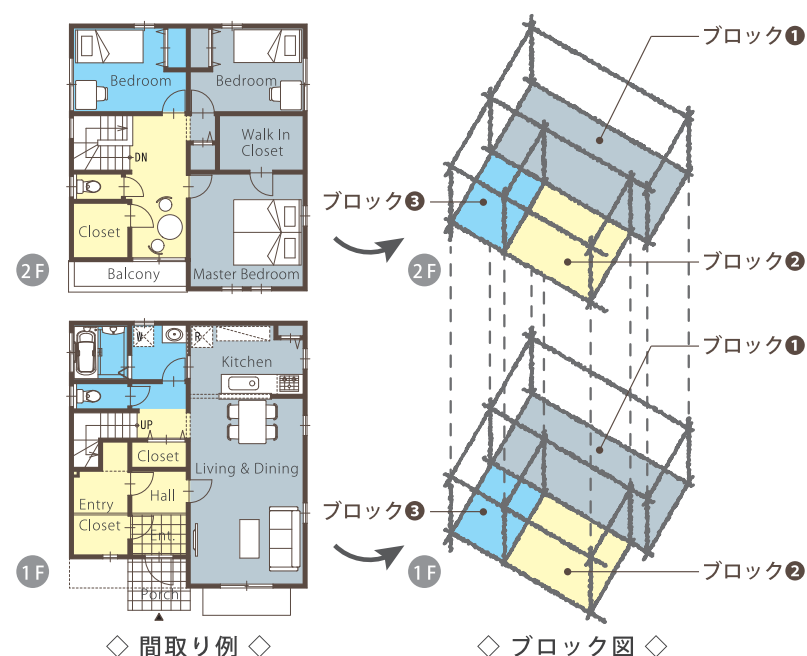
※『遊のブロックプラン』は、有限会社 遊建築設計社の登録商標です。

『ブロックプラン』の家

① 強くたくましい家

構造が安定。間崩れのない家で安全・安心。

住まうことへの安心感は、構造の安全性が重要です。ブロックプランでプランニングすると、1階と2階が同じブロック（箱）で重なり合い、間崩れがおきず構造が安定します。シンプルなフレームがたくましい構造をつくります。



ブロックで考えると1階と2階の壁（柱）が同じ位置で重なるので安心。合理的です。



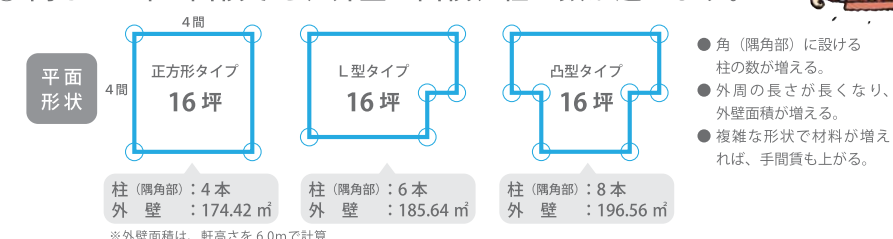
② シンプルな間取りの家

シンプルな『カタチ』でコストダウン。

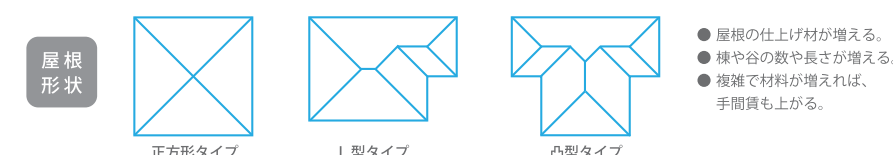
ブロックプランの家は、シンプルな形状の構造フレームとなります。そのため、構造材積を抑えることと同時に、組み立ての大手間を減らし工事費のコストダウンを実現します。

参考例

① 同じ16坪の面積でも、外壁の面積、柱の数が違います。



② 凹凸が増えると、屋根の形も複雑になります。



コスト
DOWN

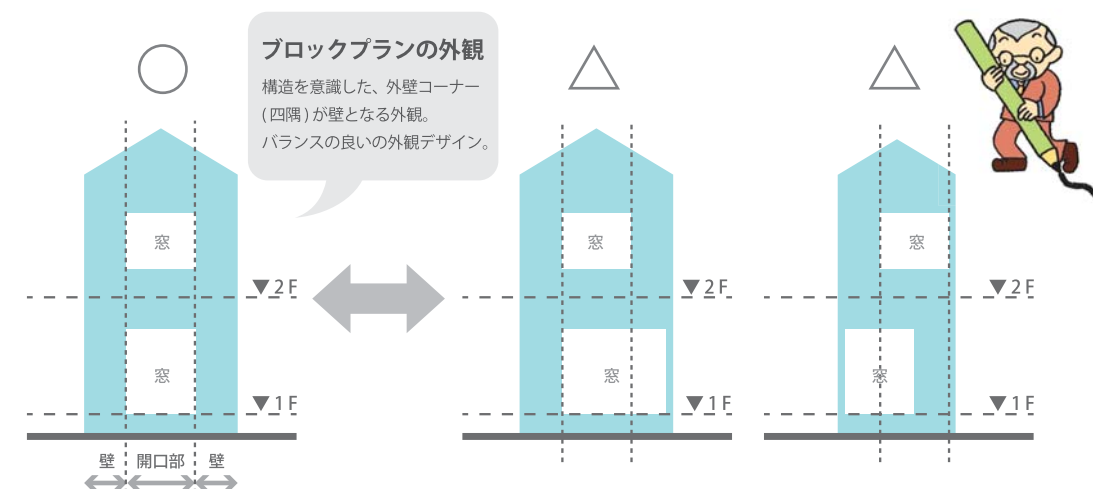
複雑なカタチは、コストアップになります！

コスト
UP

③ デザイン性に優れた家

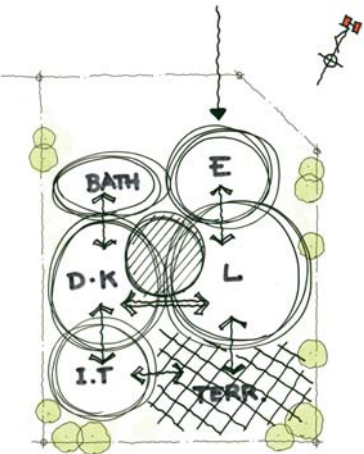
構造の安定からくる安心のデザイン。

ブロックプランの家は、構造の安定を考えて、ブロック（箱）の四隅に可能な限り壁を設けます。従って、上下階（1階と2階）の壁や窓（開口部）の位置が揃い、バランスの良い外観となります。



[ゾーニング手法との違い]

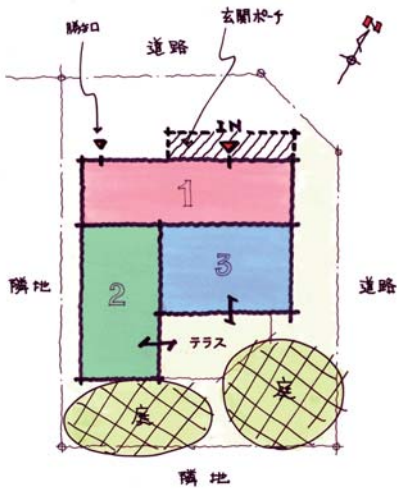
施主が満足する魅力的な間取りや外観デザイン、難しいと思っていませんか？「簡単にはつくれない」とか「プロの設計者で無ければプランニングはできない」などと思っていませんか？経験のない方、プランづくりのスピードUPを図りたい方におススメの手法、それが『ブロックプラン手法』です。「ゾーニング手法」と「ブロックプラン手法」との違いを見てみましょう！



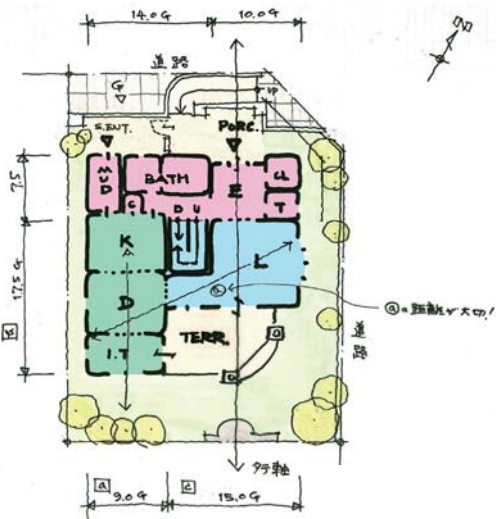
ゾーニング図

■ ゾーニング手法

『ゾーニング』手法では、同一ゾーン（部屋）を大小異なる○で表現し、相互の関係を矢印等で結び、動線を明確にしていきます。計画する住まいのコンセプトを考えるにはよい手法です。
しかし、定量化していないために『リビングなどが大きくなってしまった』り、『計画建物が敷地からはみ出した』という経験はありませんか？
慣れないと定量化が難しく、ある程度の経験を要します。そして、プランニングに時間がかかります。



ブロックプラン図



ブロックプラン図（詳細）

■ ブロックプラン手法

私どもの事務所では、『ブロックプラン』という手法でプランニングしています。
この手法の特徴は、**縦 × 横（形状・面積）**で計画することです。
条件を数値化することで、面積オーバーや外観デザインに悩む事がなくなりプランを作成するスピードがアップします。住宅の計画には最適な手法と自負しています。

[ブロックプランの特徴]

『ブロックプラン』というプランニング手法は、合理的で優れた設計手法です。
プランづくりが単純な作業となり、今まで混乱し堂々巡りを繰り返していたプランニングが面白い様に整理されます。
その特徴は次の5つです。

1 無理無駄のない間取りが出来上がる

計画条件を定量化・数値化することによって、無理無駄のない間取りが出来ます。完成された間取りや外観は、施主さんの希望（計画意図）を確実に捉えたものとなります。

2 プランニングのスピード UP が図れる

この手法で使われる計算は、足し算と引き算だけです。難しい数学は必要ありません。従って、35坪前後の住宅ならば、慣れると一日に4～5プランつくることも可能となります。

3 工事予算に合った間取りが出来る

施主さんとのヒアリング時に、必ず帖数表（床面積表）を作成し、その場で面積を調整していくことで、トータルの床面積に大きな増減が発生しにくくなります。予算内に収まる間取りが出来ます。

4 外観デザインが自然と整う

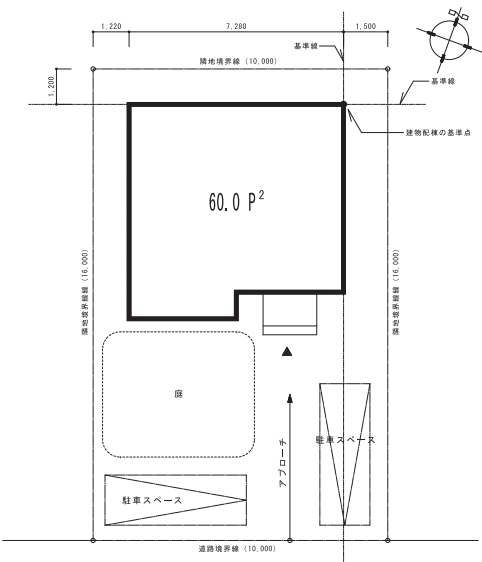
常に外観（立面）をイメージした平面計画のため、必然的に立面図が整います。平面計画後に立面を整える労力が軽減されます。上下階の壁や窓の位置が自然と揃い、バランスの良い外観デザインとなります。

5 構造の安定性が図れる

上下階のブロックが同一面積（縦×横）で重なり合うことから必然的に構造の安定が図れます。シンプルな構造フレーム（ブロック）がたくましい構造をつくります。

④ 配棟計画の検討

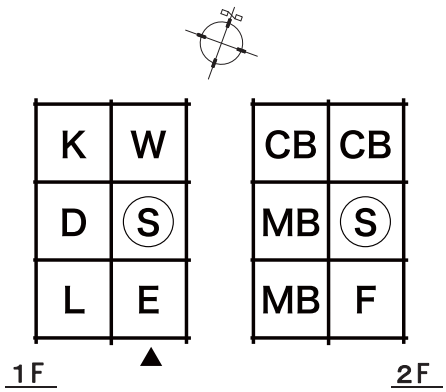
敷地に対して建物・庭・駐車スペースなどの配置を検討することを「配棟計画」としています。間取りを考える前に、敷地の諸条件、建物のボリュームを整理して把握することは重要です。敷地の使い方によって、間取りが変わります。外観デザインに合った建物の平面形状を想定し、配棟計画を確定させることがポイントです。



⑤ ブロックゾーニングの検討

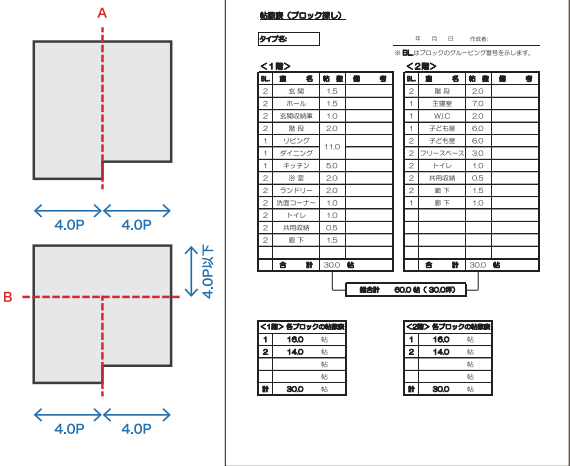
ヒアリング内容を基に、ブロックゾーニングで、部屋と部屋のつながり(暮らし方)を検討します。ブロックゾーニングは、ゾーニング手法とは違い、全て同じ大きさのブロックで表します。面積の大小は表現しません。そうすることで、ブロック同士の位置関係を整理し、施主さんの要望に合ったゾーニングを導き出します。

※「ブロックゾーニング」は、遊建築設計社でつくった「造語」です。



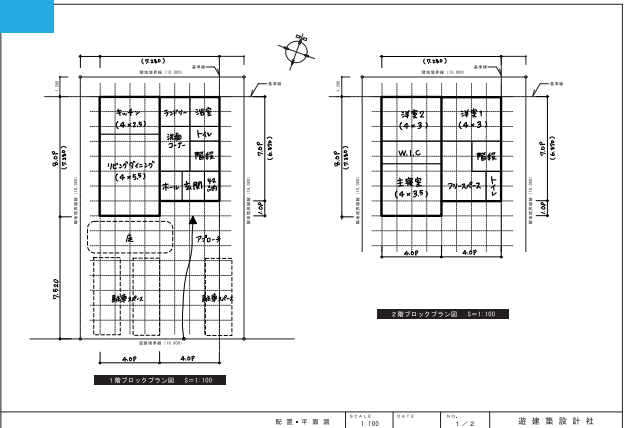
⑥ ブロック探し

はじめに、建物がいくつのブロックでつくられるか、その数を想定します。(外観デザインとブロックゾーニングを基に、ブロックがどの位置で分かれるか、その境目を探します)次に、帖数表にて、上下階が同じ床面積で重なり合うブロックを探していきます。想定したブロックとゾーニングに照らし合わせながら、各部屋をグルーピングします。



⑦ ブロックプラン図の作成

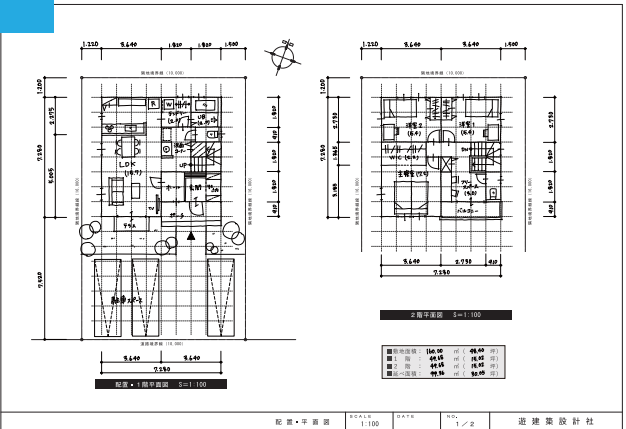
ここから、面積を長さに変えていきます。面積は、形を固定しません。ブロック各辺の長さを決めることで形が確定していきます。はじめに、外観デザインと、配棟計画を基に、形状を決めていきます。次に、ブロックという塊(カタマリ)の中に各スペースを収めていきます。



⑧ ラフプラン図の作成

今まで想定してきたことを確定させていく作業がラフプランの作成意図です。この先は、プランの確認作業が中心となります。

- 【確認ポイント】
- ・部屋同士のつながり方(出入口の位置や動線)
 - ・出入口の型式(ドア・引き戸など)
 - ・ドアの開き勝手
 - ・風の通り道(窓の位置)
 - ・各室の帖数
 - ・収納の数や大きさ
 - ・延べ面積
 - ・構造(柱、耐力壁の位置・数量)
 - ・デザインの注意点 など



⑨ プレゼン図面の完成

CADにて作図されたプレゼンテーション図面です。ポイントは、施主の希望通りの外観デザインとなっていること。そして、安定した構造に出来上がっていることです。②で捉えた好みの外観デザイン、ヒアリングに基づいた施主の希望する暮らし方が盛り込まれているかを確認して完成です！

